和牛赤身、霜降りに近づく

1年で卸値4割高　価格差400円台に縮小

国産牛肉の「赤身」の価格が上昇し、「霜降り」に近づいている。消費者の健康志向によって肉の選び方が変わりつつあり、赤身の卸値は1年で4割高となった。和牛の生産減少で国産牛肉が全般的に値上がりする中、赤身は脂肪分であるサシが豊富な肉に比べ2倍以上のペースで上昇している。

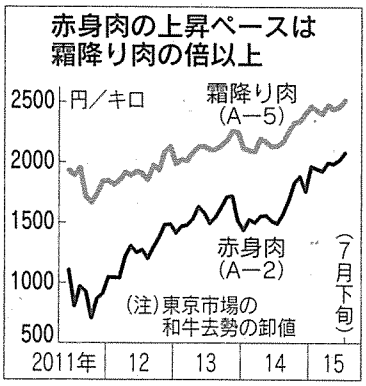
消費者の健康志向　背景

牛肉はサシがどれだけ入っているかなどで1～5等級に分かれる。和牛（去勢）では、代表的な赤身であるA－2等級の東京市場での卸値が平均1キロ2078円となっている。ここ1年で39％高く、1990年以降では最高値となった。小売店での販売価格も少しずつ上がっている。

これまで最高級として定着していた霜降りはA－5等級の卸値が同2514円で年間の上昇率は16％だ。赤身と霜降りの卸値では、約4年前まで1キロあたり1000円近い価格差があった。いまでは赤身の上昇によって400円台まで縮小している。

日本では硬い赤身肉よりも脂肪分のある肉を評価してきたが、ここ数年で熟成肉（エイジング・ビーフ）の外食店が流行したこともあって赤身を求める消費者が増えた。リクルートライフスタイルが2014年に約1万人から集めたアンケート調査では、5年前と比べて「赤身に好みが変わった」との回答が3割にのぼった。家庭の焼き肉でも肉本来の味が楽しめる赤身を、シンプルな塩で味付けして食べるのを好む人が増えているという。

国産牛肉は、黒毛和牛などの子牛が足りなくなり全体的に値上がりしている。子牛の繁殖農家の減少で、成長した牛へと育てる畜産農家が買える頭数はここ5年で14％減った。特に手間のかかる霜降り肉の生産量の減少が目立ち、霜降りを買えなくなった消費者が「赤身の多い肉を買うようになった」（食肉卸ミートコンパニオンの植村光一郎常務）面もある。また消費者の牛肉人気は根強く、最近は小売価格が上昇しても消費は拡大している。



赤身は肉本来の味が楽しめる（都内スーパー）

レアメタルが一段安

鋼材向け、中国需要不振

国際価格

鋼材の強度を高めるレアメタルの国際価格が一段と下落した。モリブデンは、指標の三酸化モリブデンが1ポンド6ドル弱と6月に比べて1割安い。1年前から約5割下がった。中国で需要が減少している影響が大きい。為替の円安傾向よりも国際価格の下落の影響が大きく、日本の輸入価格も下がり始めた。

バナジウムも指標のフェロバナジウムが1キロ19・30ドル前後で3カ月ぶりの安値水準だ。ステンレスに添加する金属マンガンも1トン1745ドル前後と前月比5％下落している。

中国では景気減速の影響で住宅向けの鋼材の需要が鈍い。資源価格の下落により鉱山開発が減り、鉱山で使う切削工具向けも振るわない。製品価格の下落で原料の調達意欲が落ち込んでいる。

価格下落を受けて供給削減の動きが出ており、バナジウムと金属マンガンの主産国である中国では鉱石の採掘を減らしたり生産を休止したりし始めた。ただ需要の減少に追いつかず、「大幅な価格上昇は期待できない」（金属商社）。

モリブデンも主産国のチリで6月中旬から販売を休止したところがあるという。ただ8月以降、別のチリの新鉱山からアジアにモリブデンが流入する見通しで、再び需給が緩む可能性がある。

国際価格の下落を受けて、5月のモリブデン酸化物の輸入価格は1キロあたり1678円と前年同月比15％下がっている。

需要家の特殊鋼メーカーの間からは「原料安で製造コストが下がっている」との声もあがっている。

C重油4～8％値上げ

JXエネ、7～9月

JX日鉱日石エネルギーは28日、火力発電などに使うC重油の7～9月（4～6月）より4～8％引き上げると表明した。今後、電力会社など大口需要家と交渉を進める。

発電用の低硫黄C重油（硫黄分0・3％）は1キロリットル5万9680円と前期の打ち出し価格と比べ4540円（8・23％）上げる。4～6月分の交渉は継続中となっている。製紙工場などのボイラー向け高硫黄C重油（流黄分3・0％）は4

早場米、九州2県「不良」

15年産、中旬の作況

日照不足・低温響く

農林水産省は28日、九州・四国で栽培する2015年産の早場米の7月15日時点の作況を発表した。宮崎県、鹿児島県、沖縄県が「不良」、高知県が「平年並み」になる見込みとした。九州の2県が「不良」になるのは1998年産以来17年ぶりだ。長雨による日照不足や低温が影響した。

「不良」は作況指数で94以下に相当する。宮崎、鹿児島は6月の日照不足などで穂やもみの数が平年より少ない。一方、沖縄は台風6号の影響で開花などがうまく進まなかった。飼料用米への転作が進んだこともあり、九州の早場米の収穫量は前年と比べ大幅に減少する見通しだ。

4県の早場米が全国のコメの作付面積に占める割合は14年産で1・3％だった。関東や東北の生育状況は順調との見方が多く、15年産米全体の作況が悪化するかは現時点では見通しにくい。

農産物が値下がり

国際価格　トウモロコシなど

農産物の国際価格が下落した。シカゴ市場のトウモロコシは28日の時間外取引が1シェフル3・7ドル前